

MILメディア情報リテラシーとESD持続可能な開発のための教育：ESDベルリン宣言、ESD for 2030ロードマップによるトランスフォーラム

長岡, 素彦

(出版者 / Publisher)

法政大学図書館司書課程

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

The Journal of Media and Information Literacy / メディア情報リテラシー研究

(巻 / Volume)

3

(号 / Number)

1

(開始ページ / Start Page)

203

(終了ページ / End Page)

208

(発行年 / Year)

2021-11

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00025539>

法政大学図書館司書課程

メディア情報リテラシー研究 第3巻1号、203-208

MILメディア情報リテラシーとESD持続可能な開発のための教育 —ESDベルリン宣言、ESD for 2030ロードマップによる トランスフォーム

長岡素彦

一般社団法人地域連携プラットフォーム 代表理事

これまで、MILメディア情報リテラシーとESD持続可能な開発のための教育の関係について述べてきたが、ここではESDベルリン宣言(2021年5月)、ESD for 2030ロードマップ(2020年11月)との関係を述べたい。すでに、MILメディア情報リテラシーとESD持続可能な開発のための教育の関係については「メディア情報リテラシー研究」の「ESD for 2030持続可能な開発アジェンダとMIL、デジタルシチズンシップ—科学技術イノベーション型の教育からESD for 2030への転換—」⁽¹⁾で述べた。

あわせて、日本政府の「第2期ESD国内実施計画」、改定された「持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引」などにも触れる。

1. ESD for 2030持続可能な開発アジェンダ (ESD for 2030)

国連DESD持続可能な開発のための教育の10年のプログラム「ESDに関する国連の10年」(2005年～2014年)と「ESDに関する世界行動計画」(2015年～2019年)を踏まえ、新たな枠組みである第206回ユネスコ理事会および第40回ユネスコ総会において、新たな枠組み「2030年のためのESD」が採択された。

その後、ESDの推進枠組みであるグローバルアクションプログラム(ESD・GAP)で推進されてきた。

2019年12月の第74回国連総会決議「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて(ESD for 2030)」⁽²⁾において「ESDはSDGsの達成の不可欠な実施手段」であり、「すべての教育段階において包摂的かつ公正な質の高い教育」あることが確認された。また、SDGsに関連するトピックを取り上げるだけでなく、異なるSDGsの目標間を相互に関係づけ、持続可能な開発自体を促進するものとされた。そして、ESDは単なる「学習」ではなく、トランスフォーミング(Transforming)のためのトランスフォームする行動(Transformative action)であり、「統合された問題解決コンピテンシー」である。

2020年11月に、この「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて（ESD for 2030）」を導入するための指針と実施プロセスを具体的に示す「ESD for 2030 ロードマップ」（Education for Sustainable Development: A roadmap、持続可能な開発のための教育：ロードマップ）が発表され、各国・地域で実施されている。

「ESD for 2030 ロードマップ」の構成は以下のとおりである。

Foreword（前文）

Executive summary（要約）

1, An urgent call for action（緊急の行動要請）

2, ESD for 2030

3, Priority action areas（重点的な行動領域）

4, Implementation（実施状況）

Annexes（付録）

ここでは、ロードマップとして行動への緊急の呼びかけ「何をしなければならないか」が語られ、2030年に向けたESDの目標と目的や優先行動分野の具体的展開と「持続可能な開発に向けた大きな変革への重点化」が述べられている。

MILメディア情報リテラシーは、これらすべてがかかわるが、特に下記の「技術の未来」に寄与できる。

「技術の進歩がもたらす機会と課題に対応しなければなりません。「古い」問題のいくつかは技術によって解決されるでしょう。「古い」問題のいくつかは技術によって解決されるでしょうが、新たな課題やリスクが発生します。

批判的思考と持続可能性の価値がますます重要になり、ESDを教えることがテクノロジーが持続可能性の大部分を解決してくれると錯覚してしまうと、ESDを教えることがより困難になってしまいます。」⁽³⁾

MILメディア情報リテラシーはICT技術情報通信技術のスキルを養成するICT教育を包括するにとどまらず、現実の事象や情報を不正確な情報やデマを批判的思考により把握することや、上述の全ての問題を技術で解決できると錯覚をも是正する。

また、「ESD for 2030 ロードマップ」で各国・地域で実施されているESD持続可能な開発のための教育では、COVID-19パンデミックで拡大した教育格差を、主な問題として取り上げ、教育格差是正のための教育のICT技術情報通信技術の活用のあり方も実践されており、MILメディア情報リテラシーは大きな役割を担う。

2021年5月17日から19日に持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議（UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development）がユネスコ主催、ドイツ連邦教育研究省の支援でオンライン開催された。

この会議はESDの新たな枠組みであるユネスコの新しいESDロードマップ開始にあたり、世界70か国の教育大臣や副大臣、国際機関、政府間組織、非政府組織、市民社会、アカデミア、ユース、産業界と教育学習に関わるあらゆる分野から参加があった。

ここでは「ESDに関するベルリン宣言」が採択され、全てのSDGsの目標達成の鍵となるESDを2030年に向けてユネスコ加盟各国で確実に進めていくことが確認された。

「ESDに関するベルリン宣言」の構成は以下のとおりである。

Preamble(前文)

Our commitment(我々のコミットメント)

Way forward(今後の取組)

基本的に新型コロナウイルス感染症の世界的大流行によって増幅している世界の相互に関連する持続不可能な諸課題に対する緊急行動と根本的なトランスフォーメーションが必要である。

この中でMILメディア情報リテラシーは「学習者が、批判的思考や協調・課題解決能力、複雑さやリスクへの対応力、レジリエンスの強化、体系的かつ創造的に思考する力といった認知的能力及び非認知的能力を培うことを可能にし、市民として責任ある行動を取る力を与える」⁽⁴⁾こと、及び、公正な世界と環境を推進し、異文化理解、文化多様性、平和と非暴力の文化、包摂性、責任ある行動的なグローバル市民の概念を推進することに、特に寄与する。

また、MILメディア情報リテラシーは、以下のようなコミットメント、認知的能力、社会性と情動の学習、個人及び社会的側面の変容に向けた行動能力に共に重点を置き、持続可能な開発を個人の行動変容、経済・社会のシステムレベルでの根本的な構造改革・文化変容を推進し、また、これらの変化をもたらすために必要となる政治的行動を促進する新技術、デジタル技術に対して批判的思考及び持続可能性原則に基づいての学習、教育のためのオープン教育資源、オープンサイエンス、適切なeラーニングを推進する。

さて、2021年5月に我が国における「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関する実施計画（第2期ESD国内実施計画）では「『ESD for 2030』の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方を初めて明確化。ジェンダー平等、2050年カーボンニュートラル、AI・DXの推進等を踏まえつつ持続可能な社会の創り手を育成」⁽⁵⁾をめざす。

しかし、「ICT化を通じた教育環境の充実 政府は、Society 5.0時代に求められる学びの実現に向けて、『GIGAスクール構想15』に基づき、2021年4月から1人1台端末環境での学びを本格的にスタートさせるべく、学校ICT環境整備を全国一斉に進め、デジタルコンテンツ等も活用した教育を進める。また、子供たちがICTを活用した学校教育を通じて身に付けた幅広い知識等を地域でさらに深め、実践的な学びを行うための支援を実施する。」⁽⁶⁾

また、再度改定された「持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引」(令和3年版)⁽⁷⁾ではコロナについての具体的な対応は下記の通りある。

このように現在の持続不可能化のプロセスにデジタルトランスフォーメーションDXやコロナなどの事態に統合的に対応するのが2030アジェンダSDGs、ESD for 2030であるが、日本政府や文科省は、デジタルトランスフォーメーションDXへの対応やコロナ対応はされていない。

学校教育でのデジタルトランスフォーメーションDXへの対応は「GIGAスクール構想」であり、「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現」⁽⁸⁾するものであるが、サステナビリティ、2030アジェンダSDGs、ESDとの関係は考慮されていない。

学校教育でのコロナへの対応は「ニューノーマルにおける新たな学びに向けて～データ駆動型の教育への転換～」⁽⁹⁾としてデジタルトランスフォーメーションDXを中心にデータ駆動型の教育への転換を図るもので、サステナビリティ、2030アジェンダSDGs、ESDとの関係は考慮されていない。

前述のESD for 2030ロードマップの動きは、従来から指摘してきた通り、現在の国家政策、SDGs政策、教育政策は、デジタルトランスフォーメーションDX、AIなどの科学技術イノベーションアプローチ⁽¹⁰⁾の科学技術中心主義が基本であり、サステナビリティを基本においてはでない。もちろん、「2030アジェンダの履行に関する自発的国家レビュー2021～ポスト・コロナ時代のSDGs達成へ向けて～」⁽¹¹⁾では、SDGs政策としてはデジタルトランスフォーメーションDXやコロナと関連付けているが、SDGs政策自体も科学技術中心主義のSociety 5.0の既成の国家政策のひとつ(Society 5.0 for SDGs)にすぎない。

持続不可能化のプロセスにデジタルトランスフォーメーションDXやコロナなどの事態を統合的に対応するにはESD自体のトランスフォーミングが必要である⁽¹²⁾。

すでに、サステナブルイノベーションアプローチ(SDGs・DX)のESD for 2030はESD自体のトランスフォーミングである⁽¹³⁾。

このESD自体のトランスフォーメーションをさらにすすめていくには、ここでは3つのポ

イントが考える。それは、メディア情報リテラシー型 ESD、チェンジエージェントのための ESD、ソーシャルラーニングとしての ESD である。

ひとつは、メディア情報リテラシー型 ESD⁽¹⁴⁾ である。メディア情報リテラシー型 ESD とは MIL メディア情報リテラシーと ESD を融合することにより、単に AI 活用能力、「情報能力」や「情報スキル」の獲得ではなく、情報を的確に読み解き、自分たちの学習過程や成果を映像メディアで発信することなどで、現実に基づいた実践的なメディア情報リテラシー能力と統合的リテラシー⁽¹⁵⁾ を得られる。このメディア情報リテラシー型 ESD に、サステナブルを基本においた方法で GIGA スクール構想をも活用していくことかできる。

ふたつめは、チェンジエージェントのための ESD⁽¹⁶⁾ である。チェンジエージェントのための ESD とはトランスフォーミング(変革する行動)するもので、学習者環境、経済、社会の新たなトランスフォーメーションをすすめる「システム」のチェンジエージェント(変革の担い手)であり、同時に、ひとりひとりが学びによって自身の行動、態度、ライフスタイルからトランスフォーメーションをすすめる「個人」としてのチェンジエージェント(変革の担い手)の両方である。このことにより、システム・社会と個人のそれぞれの SDGs トランスフォーメーションをすすめることができる。

このチェンジエージェントのための ESD は、今ある職業や業種へのキャリアの教育ではなく、サステナブルを基本においた未来の担い手を生み出す⁽¹⁷⁾。

そして、ソーシャルラーニングとしての ESD⁽¹⁸⁾ である。ソーシャルラーニングとしての ESD とは社会的相互作用、役割、知識、言語、および実践を再形成する。

ソーシャルラーニングには統合的なシステムのリテラシーとトランスフォームのリテラシーがある。

前述の「統合的なリテラシー」のうち統合的なシステムのリテラシーとは仕組みの理解とともに、拘束的枠組みの批判的解読が必要である。また、現状の総点検を行い、課題分析を行う。

そして、トランスフォームのリテラシーは、システムのリテラシーにもとづいてイノベーションによって社会的相互作用、役割、知識、言語、および実践を再形成し、「制度をシステムに落とし込める」レジューム変革、トランジションをおこす。

(1) 長岡素彦, 2020, ESD for 2030 持続可能な開発アジェンダと MIL、デジタルシチズンシップ—科学技術イノベーション型の教育から ESD for 2030 への転換—, 法政大学図書館司書課程 メディア情報リテラシー研究 第2巻1号, 138-141

(2) 持続可能な開発のための教育: SDGs 達成に向けて (ESD for 2030)

(3) 「ESD for 2030 ロードマップ」(Education for Sustainable Development: A roadmap, 持続可能な開発のための教育: ロードマップ)

(4) 「ESD に関するベルリン宣言」

(5) 持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議, 2021, 我が国における「持続可能な開発のための

- 教育 (ESD)」に関する実施計画 (第2期 ESD 国内実施計画)
- (6) 持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議,2021, 我が国における「持続可能な開発のための教育 (ESD)」に関する実施計画 (第2期 ESD 国内実施計画)
 - (7) 文部科学省国際統括官付 . 日本ユネスコ国内委員会 ,2021, 持続可能な開発のための教育 (ESD) 推進の手引
 - (8) 文部科学省 ,2021,GIGA スクール構想の実現へ
 - (9) 文部科学省 ,2021, ポストコロナ期における新たな学びの在り方について (第十二次提言)
 - (10) SDGs 持続可能な開発目標へのアプローチと参画長岡 素彦 武蔵野大学環境研究所紀要 8 35 - 45 2019年3月
 - (11) 外務省 ,2021, 2030 アジェンダの履行に関する自発的国家レビュー 2021 ~ポスト・コロナ時代の SDGs 達成へ向けて~
 - (12) 長岡素彦 ,2019, SDGs と Society 5.0 の時代の ESD と新たなシチズンシップ—ESD としての SDGs—, 日本 ESD 学会年次大会
 - (13) 長岡素彦 ,2020,SDGs ロードマップ -2030 アジェンダ・SDGs によるトランスフォーム , 武蔵野大学環境研究所紀要 9
 - (14) 長岡素彦 (2015)「福島での教育復興と持続可能な復興と発展を目指す「ふるさと未来創造 ESD」 - これまでの ESD と本プロジェクトの意義」『ユネスコ ESD 福島ニュース No.1』法政大学キャリアデザイン学部
 - (15) UNESCO,Education for Sustainable Development Goals Learning Objectives,2020 ユネスコ ,「持続可能な開発目標のための教育 - 学習目標 -」,2020年9月
 - (16) SDGs トランスフォーメーションと SDGs チェンジエー ジェント : 持続不可能な社会と COVID-19 を超えて 長岡素彦 武蔵野大学環境研究所紀要 (10) 1 - 12 2021年2月
 - (17) 長岡素彦 (2021).SDGs と ESD・PBL—2030 持続可能な開発アジェンダのための ESD(ESD for 2030), 関係性の教育学 ,Vol. 20 No. 1,205–214
 - (18) SDGs トランスフォーメーションと SDGs チェンジエー ジェント : 持続不可能な社会と COVID-19 を超えて 長岡素彦 武蔵野大学環境研究所紀要 (10) 1 - 12 2021年2月